

分科会名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">生活科</div> 令和元年 6月12日 (水)	会 場 川崎市立東柿生小学校 助言者 川崎市立小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究会 副会長 島田 美奈子 川崎市総合教育センター 石井 芳宏 授業者 川崎市立東柿生小学校 山本 真琴 司会者 川崎市立小倉小学校 船木 愛 記録者 川崎市立平間小学校 石橋 修一 世話人 川崎市教職員組合 阿部 広宣 出席者数 141名
--	--

提案の概要

研究テーマ「持続可能な地域創出する子どもをめざして」

副主題 ～主体的・協働的で深い学びの実現に向けて～

○1年生「もっとしりたいな ひがしかきおしょうがっこう」

内容(1) 学校と生活 全21時間

友達と一緒に学校の中を歩き、学校で働いている人、上級生など学校の人との関わりを深めながら、学校の施設や学校生活を支えてくれる人が分かり、楽しく安全に生活できるようにするとともに、通学路や安全を守っている人に関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。

2 研究協議の概要

「もっとしりたいな ひがしかきおしょうがっこう」ということで、「だれがどこにいるのかな」という疑問から単元に入った。本時の授業では、クイズをしたり、これまでの学校生活を振り返ったりして、どんな学校かを考える授業であった。分科会の中では、単元計画が場所から人ではなく、人から場所になっていたことと、本時で子どもからどんな言葉を引き出したかったのかという話題になった。授業者の先生からは、人から場所に単元を組み立てることで、子どもたちが主体的に活動することができたということと、今までの発見をつなげて、先生や場所がたくさんあるという言葉を出したかったということであった。

3 今後の課題

単元目標に「安全な登下校ができる」が入っていたので、安全に登下校ができる計画が加えられるとよい。1年生の最初は、自分に必要な場所が分かっていたらよく、1度の学校探検だけでは分からないので、何度も繰り返していくことが大切である。1年生の最後に来年度の1年生のために特別教室の表示を作ることも可能である。今回、単元計画が、人から入ることで、子どもたちは休み時間に自分から校長室を訪れて質問しに行っている姿があり、主体的に行動し探求していた姿が素晴らしかった。生活科の学習はスパイラルである。この時期に今回の内容は高度なので、子どもの実態に合わせて、単元を引き伸ばして、秋まで時間をかけると、さらに子どもたちの考えを深めることができるのではないかと。